**浜寺公園の松林の歴史　（**大阪府保存資料　出典元不明）

浜寺公園は、縄文時代より人々が暮らしていた場所。

紀州熊野 (熊野もうで)に通じる街道の風光明媚な所として、人々に愛されてきた。

浜寺の名前の由来は、「高師浜」 と呼ばれていたこの地に、南北朝時代、お寺が建立されたことによる。奈良吉野にある寺を「山の寺」と呼んだのに対し、ここを「浜の寺」と呼んだ。それが浜寺の名の由縁。

当時から、すでに美しい松林があった。現在、このようにきれいな姿で私たちを楽しませてくれているが、幾度となく松林がなくなる危機にみまわれている。

それは、いつだったのか？

まず初めに、室町時代、応仁の乱、ここは戦場地となり戦火にさらされて松林がなくなった。

次には、江戸時代、田安藩の財政危機を救い、松は用材として高級であるため材として売るために伐採された。

その後、幕末、明治維新により職を失って生活に困った武士を救済するために伐採された。

そのとき、明治政府の実力者、大久保利通が遊覧で浜寺を訪れて、そのような事態を目にし、歴史に名高い松林を守るため伐採中止命令を発令。太政官布達により、わが国初の公園となり、松が守られた。

しかし、松林の危機はこれだけで終わらなかった。

第２次世界大戦では進駐軍の宿舎用地として、松林を伐採されて、白壁の住宅やチャペルが建設された。ラジオからジャズが流れ、将校たちが海を楽しんだ。消火栓が当時の名残りとして現存する。

そんな危機を幾度も乗り越えて、現在の浜寺公園となった。その永い歴史を思うと感慨深いものがある。

公園になり、長年、松林を整備してきた。

通常、この公園面積からだと２０００本~３０００本の植栽が適切と思われるが、現在、浜寺公園には４８００本もある。

松の寿命は、およそ １００ 年ぐらいであるが、中には大木となり、３００年以上も長く生きるのがある。

残念ながら現在、浜寺公園で大木は見ることができないが、明治時代には３つの名松があったと言われている。

かつて、紀州の殿様がこの地に立ち寄られた際、「これをわが庭に移す者があれば千両与えん」と言われたことから名前がついた。この松は千両松。

また、木の幹の空洞ができて、白蛇がいた。白蛇は神の遣いといわれ大切にされた。この松は白蛇松 (はくじゃしょう)。

大松、 傘松と呼ばれていたが、あまりにも枝ぶりよく、能の謡曲、羽衣にちなんで命名された羽衣松。

ちなみに、大鳥大社の松明 (タイマツ) もここの浜寺公園の松が利用されている。

また、情熱の詩人・与謝野晶子は、堺の出身。母校は泉陽高校。鉄幹と歌会したのが「寿命館」である。寿命館があったところに、与謝野晶子の歌碑が建っている。碑は、もとは別のところにあった。しかし公園工事の都合で、現在のところに移転された。しかし驚くことにその場所が寿命館跡だったとか。

数々の逸話が浜寺にはある。